

3 指導の実際と考察

(1)単元の概略

教材「蜜柑」(芥川龍之介)

C工「文章を読んで人間，社会，自然などについて考え，自分の意見をもつこと。」の力を高めるために実践する。

本教材は，場面の構成がはっきりしており，登場人物の心情もとらえやすい。叙述に即して，登場人物の心情を読み取ることを通して，想像力や思考力を発揮した言語活動に取り組みさせる上で効果的な教材といえる。

「蜜柑」指導計画

- 第1時 「蜜柑」を通読し，当時の時代背景や難語句の意味を確認し，初発の感想を持つ。
- 第2時 物語における起承転結の文章の構成をとらえ，文章を分ける。
- 第3時 「蜜柑」の主人公の心情が書かれた部分を指摘し，KBの画面上で，その心情にふさわしい色の付箋を貼る。
- 第4時 クライマックスをとらえ，KBを用いて「娘」の心情について読み深める。
- 第5時 主人公を娘の視点に置き換えて，書き換えを行う。
- 第6時 読後の感想を書き，初発の感想で気付かなかった点について考える。

(2)指導の実際

登場人物の心情などについて各班ごとに話し合わせ，同時にその事柄をKBに書き込むことで学級全体で共有させた。生徒は，他班の読み取りをもとに，さらに自分たちの読み取りを修正したり，深めたりしていった。

第3時では，主人公の心情が書かれた部分を指摘し，KB上に，その心情にふさわしい色の付箋を班ごとに適宜選ばせ貼らせていった。本文を印刷したワークシートに付箋紙を貼らせるとい

- C1：どういう気持ちで投げたかでしょ？
- C2：1班は？ 1班，なんかちょっと違うよね？
- C1：3班は？ みかんは，弟たちへの感謝の気持ち？
- C2：他の班は自分たちの班しか.....。
- C1：不安とかせつないとか.....そういう感じ。
- C2：寂しい気持ち.....？
- C3：これからひどい感じになるから，つらい気持ち？ 行きたくて行く訳じゃないんだもんね。(うん)
- C1：不安.....？(うん.....)
- C3：これから先.....，(うん，なに?)
- C2：やっていけるかどうか.....家を離れて.....。

う従来の学習活動を，KB上で行わせたものである。端末のモニタには，クライマックスの場面において，各班からそれぞれに貼られた付箋が，そろって大きな色の変化を示しており，そのダイナミックな視覚的效果により，生徒の学習意欲は大きく高められた。

第4時では，「娘」の心情について，KB上に自分たちの読み取った事柄を書き込んでいった(前ページ

「KBの画面」参照)。他のグループの読み取った事柄を参考に自分たちの読み取りを練り上げていくことによって，より主体的に学習活動に取り組み，その結果として，活発な話し合いを通して，想像力や思考力を発揮しながら充実した読み取りが行われた。

(3)考察

授業にICTを用いた効果として次の点が明らかになった。

想像力，思考力の高まり(話し合い活動の活性化，KBへの書き込みの増加)

- ・グループ内では言いにくい事柄でも，他班で出されている意見なら，自分でも自信を持って発言することができた(生徒感想から)。

表現を読み取る力の高まり(付箋紙貼付による色分けなど)

相手意識の高まりと表現へのこだわり(他班に公開する上で表現の吟味が行われていた)

教師の支援の焦点化(各班の学習活動状況が，端末のモニタを通してとらえやすい)

4 今後の課題

ICTを利用することは，手段であって目的ではない。活用する上では，どのような言語の力を高めたいかというねらいを明確に持つことが大切である。

また，よりよいものを相手に伝えたいという相手意識の高まりが，本実践の随所で確認できた。この相手意識を，パソコンや携帯電話を活用する実生活の中で，いかに生かさせていくかも，課題の一つとして考えていきたいことである。